

高等学校における道德教育の推進の在り方に関する研究 （第1次報告）

－中学校における指導内容を踏まえた取組－

人間としての在り方生き方を十分に考え、主体的に判断し行動できる生徒の育成に資することを目的として、高等学校における道德教育の在り方及び推進方法について3年間の研究を行うこととした。まず、各校で道德教育を計画する際の留意点を検討・整理し、『高等学校における道德教育推進のための一問一答集』を作成した。さらに、道德教育指導参考資料『明日を拓く－人間としての在り方生き方を求めて－』（愛知県教育委員会発行）を活用した国語科と家庭科の授業実践を通して、教科における道德教育の考え方を示すことができた。

<検索用キーワード> 高等学校 学習指導要領 生きる力 在り方生き方
道德教育 道德の時間 全体計画 道德的実践力

指導・助言

名城大学人間学部教授

宮嶋 秀光

研究会委員

県立鳴海高等学校教諭

豊永 秀行

県立瀬戸高等学校教諭

勝見ひろみ

県立岡崎工業高等学校教諭

五十嵐崇文

県立豊橋商業高等学校教諭

小島 佳世

総合教育センター教科研究室長

齋藤 育浩

総合教育センター研究指導主事

田中 基明

総合教育センター研究指導主事

米津 明彦（平成25年度主務者）

1 はじめに

昨今の子どもたちの現状として、自制心や規範意識が希薄になり、生活習慣の確立も不十分であることや、いじめや暴力行為等の問題行動に見られるように、心に問題を抱える子どもが増えていることが挙げられている。また、自分に自信のある子どもが国際的に見て少ないことや、学習に無気力であったり将来の生活に対して不安を感じたりしている子どもの増加も指摘されている。このような状況から、学校における道德教育の果たすべき役割は大きくなっている。

今次学習指導要領では、学校教育において「生きる力」という理念を共有し、「確かな学力」「健やかな体」とともに「豊かな心」を育むこととし、児童生徒の発達の段階に応じた道德教育に取り組み、学校の教育活動全体を通じて道德性を養うことが示されている。小学校及び中学校では「道德の時間」が要の時間として設定され、1年間で取り上げる内容項目も明示されている。さらに、道德教育推進教師（道德教育の推進を主に担当する教師）を中心とした指導体制の充実や、発達の段階に応じた指導内容の重点化等が求められている。高等学校においては、生徒が人間としての在り方生き方について自ら考え、体験活動や思索の機会を通して自分自身の判断基準を確立し、自分にふさわしいよりよい生き方を選択できるようなことを目指し、中学校の道德教育の指導内容を踏まえた道德教育を

行うことが大切であるとされている。

平成23年6月に策定された「あいちの教育に関するアクションプランⅡ」では、幅広い県民の参加により道徳性・社会性の向上を図ることが第一の重点目標とされ、道徳教育の充実は、本県の学校・家庭・地域が連携して取り組むべき主要な施策となっている。愛知県教育委員会では、平成25年3月に道徳教育指導参考資料『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めてー』を発行し、各高等学校がさまざまな教育活動の場で具体的に活用することのできるワークシート付きの教材を提供しており、それらを参考にして、各教師が創意工夫を重ね、一層充実した取組を行うことが求められている。

各高等学校においては、全教師が協力して道徳教育を展開するため、指導の方針や重点を明確にした道徳教育の全体計画を作成し、年間指導計画に基づいた道徳教育を実践することとなっている。しかし、小学校及び中学校における「道徳の時間」が高等学校では設定されていないことや、高等学校における道徳教育についての実践研究が少なく、道徳教育の具体的なイメージがつかめないことなどから、道徳教育が浸透し充実しているとは言い難い状況である。各校で道徳教育を意図的・計画的に推進するための方策が必要となっている。

これらのことを踏まえ、本研究では、高等学校における道徳教育の在り方について研究を進め、各学校における道徳教育の推進に資する提案をすることとした。

2 研究の目的

人間としての在り方生き方を十分に考え、主体的に判断し行動できる生徒の育成に資することを目的として、高等学校における道徳教育の在り方及び推進方法について研究する。その際、県内各高等学校において道徳教育についての理解を深め、各校が設定する道徳に関する重点目標の実現に向けて教育活動全体で計画的な道徳教育が展開されるような提案をする。

3 研究の方法

平成25年度から平成27年度までの3年間にわたり、研究協力委員と所員の共同研究を行う。本年度は、次の項目についての調査及び実践を基に高等学校における道徳教育の推進の在り方について協議することとした。その内容について、総合教育センター研究発表会において第1次報告を行うこととした。

- ・ 学習指導要領の趣旨を踏まえた高等学校における道徳教育の在り方について
- ・ 義務教育段階における道徳教育の内容と、高等学校への円滑な接続について
- ・ 道徳教育先進県での取組の調査と、本県の道徳教育推進の方向性について
- ・ 研究協力委員の所属校における『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めてー』（愛知県教育委員会発行）の活用による道徳教育の具体的な取組や推進方法について

4 研究（第1次報告）の内容

(1) 高等学校における道徳教育の必要性と可能性

平成25年11月22日（金）に総合教育センターで開催された研究発表会第2部会において、本研究の第1次報告を行った。同部会において、名城大学人間学部宮嶋秀光教授が「高等学校における道徳教育の必要性と可能性ー継続的・発展的・創造的な道徳性の育成のためにー」という演題で講演され、中学校における道徳教育との円滑な接続や、高等学校における道徳教育の推進の在り方等に関する

知見が得られた。講演のレジュメ（原文）は次のとおりである（資料1）。

【資料1】名城大学人間学部宮嶋秀光教授による講演のレジュメ

高等学校における道德教育の必要性と可能性

—継続的・発展的・創造的な道德性の育成のために—

はじめに

1 道德性とは何か

※「心情、判断力、実践意欲と態度などの道德性」

2 中学校の道德教育における〈道德の時間〉の狙い

※「補充、深化、統合」→「人間としての生き方についての自覚を深め」→「道德的実践力」

※森昭『教育の実践性と内面性』（1955年、著作集Ⅲ所収）

3 高等学校における道德教育の必要性とそこで求められる道德性

※「自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階」

※「人間としての在り方生き方に関する教育」

※マッキンタイア『美德なき時代』（原著1981年、邦訳みすず書房）

義務の倫理学と徳（アレテー）の倫理学

4 OECDが提起する〈コンピテンシー〉

※DeSeCoプロジェクト（2005年）「知識基盤社会」

5 高等学校の教育課程における道德教育の可能性

※（教科・科目等の）「それぞれの特質に応じて、適切な指導を行わなければならない」

※無着成恭編『山びこ学校』（1951年 青銅社）

資料（引用文）一覧

1—※「道德教育の目標は、……学校の教育活動全体を通じて、道德的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道德性を養うこととする。」（『中学校学習指導要領』平成20年）

2—※「道德の時間においては、以上の道德教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道德教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道德的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道德的実践力を育成するものとする。」（『中学校学習指導要領』平成20年）

3—※「学校における道德教育は、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、（以下5に続く）」（『高等学校学習指導要領』平成21年）

※「一方で諸徳〔注：ギリシア語のアレテーに相当〕と他方で法の道德性〔注：規範や法を遵守すること〕との間の関係を明瞭にする一つの方法とは、共通の事業を達成する共同体を創設す

るにあたって、どの時代でも含まれるであろうことを考察することだ……。そういった事業に参加した人々は、二つのまったく異なったタイプの評価的な実践を展開する必要があったであろう。すなわち、一方で彼らは、共通な（諸）善の実現に貢献するような、精神的・性格的特質を評価する一卓越性（excellences）として賞賛する一必要があっただろう。〔注：ここでも求められる実践は、アレテー（徳）の行使〕……。他方で、いくつかのタイプの行為を……〔共同体に〕害悪を加えたり産み出したりすることとして同定する必要もあっただろう。〔注：ここで求められる実践は、共同体の法や規範に違反しない行動〕……。〔中略〕……。

これら両方のタイプの実践の必要性は、そのような共同体の個々のメンバーが、二つのまったく異なる仕方で、その共同体のメンバーとしての彼の役割に背くことがあるという事実から生じている。一方は、たんに十分に善い人ではないという仕方である。それは、その共同体の共通善の達成への彼の貢献をとるに足らないものにしてしまうほど諸徳に欠けた者になりうるということだ。しかし人がこの仕方で背くとしても、その共同体の法律において明記された特定の違法行為を一つも侵さないことがありうる。実際、まさしく自分のもつ悪徳のせいで、違法行為を犯すのを控えたということがありうるのだから。」（「アリストテレスの徳論」マキンタイア・篠崎 榮訳『美徳なき時代』みすず書房所収）

4-※ 「《あれかこれかを越えること：思慮深さの一例》 差異や矛盾を扱える能力は、経済的および教育的な分野における多くのキー・コンピテンシーのリストに見出される。今日の多様で複雑な世界が要請しているのは、単一の答え、つまりあれかこれかといった解決へと急ぐのではなく、むしろ、見かけ上は矛盾したり両立しない諸目標を、同一の現実の諸側面として統合することによって、——例えば、自律と連帯、多様と普遍、刷新と継続といったもの間にある緊張に対処していくことである。このように個々人は、いっそう統合的なやり方で思考し行動することを学ぶべきであって、そのためには互いに矛盾したものにみえるかもしれないが、えてして表面的にそうであるにすぎない立場や理想どうしの中に横たわる多くの相互的な結びつきや相互関係を考慮に入れることができなければならない。」（OECD: DeSeCo Exective Summary 2005）

5-※ 「（3の続き）各教科に属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、適切な指導を行わなければならない。」（『高等学校学習指導要領』平成21年）

※ 「僕は、こんな級友と、こんな先生にめぐまれて、今安心して学校にかよい、今日などは、みんなとわんわんさわぎながら、社会科「私たちの学校」のまとめをやることができたのです。

明日はお母さんの三十五日です。お母さんにこのことを報告します。そして、お母さんのように貧乏のために苦しんでいかなければならないのはなぜか、お母さんのように働いてもなぜゼニがたまらなかったのか、しんけんに勉強することを約束したいと思っています。私が田を買えば、売った人が、僕のお母さんのような不幸な目にあわなければならないのじゃないか、という考え方がまちがっているかどうか勉強したいと思います。」（佐藤江一「母の死とその後」 無着成恭編『山びこ学校』1951年所収）

(2) 高等学校における道德教育推進に関する疑問点の整理

各高等学校で道德教育を計画する際の疑問点を検討・整理し、『高等学校における道德教育推進のための一問一答集』として30項目にまとめた(資料2)。

【資料2】『高等学校における道德教育推進のための一問一答集』で取り上げた30項目

- 道德教育の目標
 - 1 学習指導要領の基本理念「生きる力」と道德教育の関係はどのようなか
 - 2 今回の改訂で道德教育が一層重視されるようになった経緯はどのようなか
 - 3 道德教育の目標は何か
 - 4 道德性とは何か
 - 5 道德教育を進めるにあたっての配慮事項は何か
 - 6 道德教育の改訂の要点は何か
 - 7 各学校段階における道德教育の重点は何か
- 中学校における道德教育
 - 8 中学校段階の重点が「人間としての生き方」となっている理由は何か
 - 9 中学校では道德教育をどのように進めているか
 - 10 中学校の道德教育は具体的に何を指導しているか
 - 11 「道德の時間」の目標は何か
 - 12 「道德の時間」の教材は何か
 - 13 「道德の時間」の授業展開の工夫はどのようなか
 - 14 「道德の時間」における配意事項は何か
 - 15 道德教育における評価の意義は何か
- 高等学校における道德教育の考え方
 - 16 高等学校で「道德教育」を実施する理由は何か
 - 17 高校段階の重点が「人間としての在り方生き方」となっている理由は何か
 - 18 「人間としての在り方生き方」とは具体的にどのようなことか
 - 19 高等学校では「道德の時間」が設定されていないが、どのように進めるのか
 - 20 道德教育の全体計画とは何か
 - 21 道德教育の全体計画を作成する意義は何か
 - 22 道德教育の全体計画に含めるとよい事項は何か
 - 23 道德教育の全体計画を活用できるものにするポイントは何か
- 教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育
 - 24 教育活動全体を通じて行う指導の基本方針は何か
 - 25 各教科・科目における人間としての在り方生き方に関する教育とは何か
 - 26 各教科・科目において道德教育を展開させる留意点・工夫は何か
 - 27 総合的な学習の時間と道德教育の関連はどのようなか
 - 28 特別活動と道德教育の関連はどのようなか
 - 29 キャリア教育と道德教育の関連はどのようなか
 - 30 道德教育を行う時に参考になる資料はあるか

資料の巻末には、中学校の道德教育の四つの視点による内容の一覧を示すとともに、24の内容項目と教科との関連についてもキーワードを付して表にまとめた。次に示す四つの視点と24の内容項目

目（資料3）の理解により，中学校と高等学校の道德教育の接続を考えることが可能になり，各高等学校における道德教育を重点化する際にも役立つと考えた。

【資料3】中学校の道德教育における24の内容項目

- 1 主として自分自身に関すること
 - (1) 望ましい生活習慣，心身の健康，節度と調和
 - (2) 目標の実現，希望と勇気，強い意志
 - (3) 自律の精神，自主，誠実，責任
 - (4) 真理愛，真実の追求，理想の実現
 - (5) 向上心，個性の伸長，充実した生き方
- 2 主として他の人とのかかわりに関すること
 - (1) 礼儀
 - (2) 人間愛，思いやり
 - (3) 信頼・友情
 - (4) 健全な異性観，男女の敬愛
 - (5) 自他の尊重，謙虚，寛容の心
 - (6) 尊敬・感謝，報恩
- 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること
 - (1) 生命尊重
 - (2) 自然愛，畏敬の念
 - (3) 人間の弱さの克服，人間の気高さ，生きる喜び
- 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること
 - (1) 法やきまりの遵守，権利と義務，社会の秩序と規律
 - (2) 公德心，社会連帯，よりよい社会の実現
 - (3) 正義，公正・公平，差別や偏見のない社会の実現
 - (4) 集団生活の向上，役割と責任
 - (5) 勤労の尊さ，奉仕，公共の福祉
 - (6) 家族愛
 - (7) 愛校心
 - (8) 郷土愛
 - (9) 愛国心，日本人としての自覚，文化の継承と創造
 - (10) 国際理解，人類愛

この『一問一答集』を基に，高等学校における道德教育推進のための基本的な留意事項等について報告した。

また，「道德教育全体計画」の実効性を上げるための校内協力体制の在り方や，道德の内容項目と教科等との関連を示す一覧表（全体計画別葉）の活用の仕方等について報告した。

(3) 『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて－』を活用した道德授業実践

県内の各県立高等学校に配付されている道德教育指導参考資料『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて－』には，総合的な学習の時間や特別活動の時間などさまざまな教育活動の場で活用ができる20種類の道德に関する教材及び展開例が掲載されている。添付されているCD-Rには全データが記録されており，各校の実情に合わせてワークシートを加工して使用することができ

る。

教材には「自己を見つめる」「他者を理解する」「社会と関わる」の区分があり、それぞれ次のタイトルの教材がある（資料4）。

【資料4】『明日を拓くー人間としての在り方生き方を求めてー』の教材タイトル一覧

- ・「自己を見つめる」…自立度チェック，自分調べ，マナーとエチケット，15年後の私見てはいけない手紙，あと一步の勇氣，沈みゆくボート トリアージタグ
- ・「他者を理解する」…「他者」との出会い，コミュニケーション実験 上手に自己表現しよう！，クラスメイトのいいところ探し 沙紀の悩み
- ・「社会と関わる」…〇〇高校を紹介しよう，みんなでつくる条例，青少年の問題行動 赤ちゃんポスト，郷土の偉人杉原千畝（すぎはらちうね） 外国人から見たニッポン，模擬国連

本年度は、各教科においてもそれぞれの特質に応じて、適切な道徳教育を行うことが求められていることを踏まえ、教科における道徳教育の授業実践を試みることにした。国語科と家庭科において、学習内容を道徳教育の視点から捉え直し、『明日を拓く』を活用して、単元構想の中に教科の目標とともに道徳教育の内容を含める工夫を試み、実践事例を報告した。

ア 高等学校における国語科の実践

第1学年生徒を対象として、国語科の科目「国語総合」（現代文分野）において、評論（一）「空気を読む」の単元に『明日を拓く』の教材「上手に自己表現しよう！～アサーショントレーニング～」を組み込んで実践した（資料5）。道徳的視点からの単元の目標として、「自分の考えや気持ちを確認し、相手に配慮しながらそれを素直に伝える」と、「相手の考えや気持ちを理解する姿勢を示す」ことを設定した。本実践を通して、生徒のコミュニケーションに対する自信の高まりなどが実証された。

【資料5】国語科の単元構想・学習指導案（部分）

1 教科・科目	国語・国語総合（第1学年，4単位）
2 単元名	評論（一）「空気を読む」 教科書『精選国語総合』（大修館書店） 指導資料『明日を拓くー人間としての在り方生き方を求めてー』（愛知県教育委員会）第2章第2節 他者を理解する「上手に自己表現しよう！～アサーショントレーニング～」
3 単元の目標	【教科の視点】 <ul style="list-style-type: none">・叙述に即して筆者の主張を読み取る。・現代のコミュニケーションの在り方に対する問題意識を高める。 【道徳の視点】 <ul style="list-style-type: none">・自分の考えや気持ちを確認し、相手に配慮しながらそれを素直に伝える。・相手の考えや気持ちを理解する姿勢を示す。

4 単元の指導計画（全4時間） ※1時間：50分			
配当時間	指導内容		
1次（3時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・評論文を、構成に注意しながら読み取らせる。 ・筆者の主張を踏まえ、自己のコミュニケーションの問題点を考えさせる。 		
2次（1時間） ※本時	<ul style="list-style-type: none"> ・アサーショントレーニングを通してよりよいコミュニケーションの在り方を学ばせる。 		
5 本時の展開			
	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (10分)	<ol style="list-style-type: none"> 1 活動のねらいを理解する。 2 「アサーティブ度チェック」(プリント)の質問に答え、現在の自分の自己表現の特徴を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「解説」を用いて、自己表現の三つのパターンを紹介する。 ①ディフェンシブ（受身的）な自己表現 ②アグレッシブ（攻撃的）な自己表現 ③アサーティブな（自他尊重の）自己表現 	<p>〈ねらいの説明〉 「アサーティブ度チェック」(プリント)</p>
展開 (30分)	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己表現の三つのパターンを、ロールプレイの具体例を通して理解する。 2 三人のグループを作り、ロールプレイでアサーションを体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導者と指名された生徒、または生徒二人がロールプレイを例示。 ○状況例は実情に合わせ、生徒にとって身近な内容にする。 ○自己主張役は相手と自分の双方を尊重する気持ちで主張するようにさせる。 ○相手役は簡単に妥協しないようにするが、残り30秒の合図で妥協し、解決するようにさせる。 	<p>※具体例のシナリオ</p> <p>「アサーティブな自己表現 ロールプレイ」(プリント)</p>
終結 (10分)	<ol style="list-style-type: none"> 1 「振り返りシート」を用いて本時の活動を振り返る。 2 グループ内・クラス内でシェアリングを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「振り返りシート」の3, 7, 8を中心に話し合うように指示する。 	<p>振り返りシート</p> <p>〈まとめ〉</p>
6 学習活動と道徳の内容項目（中学校の分類による）との関連			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや気持ちを確認し、相手に配慮しながらそれを素直に伝える。 			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">1-(3) 主として自分自身に関すること（自律の精神，自主，誠実，責任）</div>			
<ul style="list-style-type: none"> ・相手の考えや気持ちを理解する姿勢を示す。 			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">2-(5) 主として他の人とのかかわりに関すること（自他の尊重，謙虚，寛容の心）</div>			

イ 高等学校における家庭科の実践

第3学年生徒を対象として、家庭科の科目「家庭基礎」において、「保育と子どもの福祉」の単元に

『明日を拓く』の教材「赤ちゃんポスト」を組み込んで実践した（資料6）。道徳的視点からの単元の目標として、「命はかけがえのないものであることを理解し、命の尊さについて考えることができる」ことや、「いろいろなもの見方や考え方があることを理解して、他の人に学ぶことができる」ことなどを設定した。本実践では、「命の尊さ」に関わる問いにより、生徒がさまざまな気持ちや考えを表現し、他の人の意見を聞いて自分の考えが深まったことなどが示された。

【資料6】家庭科の単元構想・学習指導案（部分）

1	教科・科目	家庭・家庭基礎（第3学年，3単位）		
2	単元名	保育と子どもの福祉 教科書『家庭基礎 自立・共生・創造』（東京書籍） 指導資料『明日を拓く－人間としての在り方生き方を求めて－』（愛知県教育委員会）第2章第3節 社会と関わる「赤ちゃんポスト」		
3	単元の目標	【教科の視点】 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児が心身ともに健やかに成長するためには、親としての自覚と責任を持ち、愛情をもって子どもを産み育てることが必要であることを理解する。 ・乳幼児が健やかに発達するために必要な子育て環境の整備において、親や家族、地域や社会が果たすべき役割について理解する。 【道徳の視点】 <ul style="list-style-type: none"> ・命はかけがえのないものであることを理解し、命の尊さについて考えることができる。 ・人は他の人とかかわりの中で生きることを理解し、思いやりの心をもつことができる。 ・いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、他の人に学ぶことができる。 		
4	単元の指導計画（全10時間）	※1時間：50分		
	配当時間	指導内容		
	1次（1時間）	子どもの触れ合いから学ぶ		
	2次（3時間）	子どもの育つ力		
	3次（4時間）	親としてともに育つ		
	4次（2時間）	健やかに育つ環境づくり		
	※本時： 2時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利と社会福祉 ・子どもを守る社会の責任（本時） 		
5	本時の展開			
		学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
	導入（8分）	1 前時学習内容の復習 2 本時の目標と学習内容を知る。	○前時の学習を振り返りながら、「生存権」に関する法律や条約について知らせる。 ○「赤ちゃんポスト」の〈ねらい〉を読み、本時の目標と学習内容を伝える。	ワークシート1 〈ねらい〉

展開 (12分)	1 母親や里親の気持ちを考える。	○「赤ちゃんポスト」について簡潔に説明し、新聞記事前半を読ませる。 ○記事を読んだ感想をまとめさせる。(5分程度) ○母親や里親の事情や心情について、ワークシートに沿って考えさせる。	<補足説明> ワークシート2(1) ワークシート2(2)
(20分)	2 赤ちゃんポストの是非について考える。 3 赤ちゃんポストの是非や在り方について、グループで話し合い、発表する。 4 グループでの話し合いと発表後の赤ちゃんポストについての自分の考えをまとめる。	○新聞記事後半を読ませる。 ○赤ちゃんポストの是非について各自で考えさせる。(5分程度) ○グループでの話し合いの進め方、司会・書記の役割及び配慮事項を全体に伝える。 ○4～5名のグループに分け、司会と書記を決める。 ○各自で考えたことを基に、グループで話し合わせる。(10分程度)	ワークシート2(3) <司会用資料> <記録用資料> ワークシート2(4)(5)
(5分)	5 自分自身が親となったとき子どもへの接し方について「命の尊厳」の視点から自由に記述する。	○グループでの話し合いやクラスでの発表を聞き、参考になった考え方や気持ちの変化などを自由に書かせる。	ワークシート3
終結 (5分)	1 本時のまとめ 2 自己評価	○「赤ちゃんポスト」の<まとめ>を読み、「命の尊厳」について考えさせる。 ○話し合いと発表について、良かった点を中心にコメントする。 ○本時の自己評価を記入させる。	<まとめ> <自己評価>

6 学習活動と道徳の内容項目(中学校の分類による)との関連

- 命はかけがえのないものであることを理解し、命の尊さについて考えることができる。

3-① 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること(生命尊重)

- 人は他人とのかかわりの中で生きることを理解し、思いやりの心をもつことができる。

2-② 主として他の人とかかわりに関すること(人間愛、思いやり)

- いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、他の人に学ぶことができる。

2-⑤ 主として他の人とかかわりに関すること(自他の尊重、謙虚、寛容の心)

5 研究(第1次報告)のまとめと今後の課題

(1) 高等学校における道徳教育の推進に向けて

学習指導要領の趣旨を踏まえ、各校が道徳教育の重点目標を設定し、目指す生徒像の実現に向けて教育活動全体で道徳教育を推進していくためには、校内の指導体制の充実が必要である。さらに、各教師が道徳教育についての理解を深め、道徳の視点から教育活動を継続的に見直していくことも

大切である。

本研究会が提案する『高等学校における道德教育推進のための一問一答集』は、学校における道德教育を考える手掛かりとして有効であると考えられる。今後も各校で活用されるようにニーズを把握して内容の検討を継続するとともに、今日の重点的な課題であるキャリア教育やE S D（持続発展教育）等の視点や生徒指導等との関連を整理し、相乗効果を図るための方策についても検討していきたい。

(2) 『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて一』の活用による道德教育の推進

国語科と家庭科の授業実践により、『明日を拓く』の教材を活用することで、教科においても道德の視点を踏まえた単元構想及び授業展開の工夫ができることが示された。教科の単元の目標を実現する上でも効果があり、教科における言語活動の充実の点からも資料の活用が望まれる。

今後の課題として、総合的な学習や特別活動など幅広い教育活動に『明日を拓く』の教材を意図的・計画的に取り入れて、高等学校の教育活動全体で道德教育を活性化する工夫を図りたい。

(3) これからの道德教育の動向を踏まえた取組

文部科学省の有識者会議「道德教育の充実に関する懇談会」において、小学校及び中学校の「道德の時間」の教科化が検討されるなど、道德教育の在り方が問われている。中学校の道德教育の内容を踏まえた道德教育を進める高等学校でも、義務教育段階の道德教育の変化を把握し、生徒の豊かな心の育成のために教育活動を更に充実させる必要がある。国の新たな方針を踏まえた高等学校段階での道德教育の推進に資するよう、調査研究を充実していきたい。

参考文献等

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 道德編』東洋館出版社，2008
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道德編』日本文教出版，2008
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』東山書房，2009
- 中央教育審議会答申「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」2008
- 加倉井隆編著『中学校新学習指導要領の展開 道德編』明治図書，2008
- 赤堀博行『道德教育で大切なこと』東洋館出版社，2010
- 赤堀博行編著『心を育てる要の道德授業 補充・深化・統合へのアプローチ』文溪堂，2010
- 徳永正直，堤正史，宮嶋秀光他『道德教育論—対話による対話への教育—』ナカニシヤ出版，2003
- 沼田裕之，増渕幸男，伊勢孝之編著『道德教育21の問い』福村出版，2009
- 林泰成，白木みどり『人間としての在り方生き方をどう教えるか～小中高12年間を通した道德教育・キャリア教育～』教育出版，2010